

令和8年度までの目標	国語		算数・数学	
	自校A B層の割合	63.8	自校A B層の割合	62.5
令和5年度の成果	自校A B層の割合	52.6	自校A B層の割合	54.0

目標達成に向けた取組

3つの観点	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研究の充実:小岩小授業モデルによる問題解決的な学習、「学び合い」学習活動の質的向上を図る <ul style="list-style-type: none"> ・通常学級担任：算数科における表現力等 ・通常学級専科(図工・音楽)：表現力等 ・特支学級・日本語学級：自他尊重。共生の姿勢 ○全国学力テスト、TBD(年間で活用)の分析、日頃の児童の学習状況把握による対策、改善、見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ○「小岩っ子の学び方」(学習のスタンダード):基本的な学習の流れ、発言の仕方や聞き方等の全学年統一 ○放課後補習教室「わく夢」の実施・活用：3年～6年で実施、算数科：TBD(東京ベーシックドリル)の活用によるCD層への働きかけ・業者の活用 ○朝学習、朝読書(各週2回)：基礎学力の習熟、読書習慣の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習は、校内で共有・共通理解のもと実施：各学年の宿題は日常・長期休業中共に、教科、内容、分量、頻度を全校で共通理解のもと実施 ○一人1台端末、デジタルドリル、東京ベーシックドリルの活用 朝学習、家庭学習、授業で活用を広げる
特に支援が必要な児童・生徒への手立て	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭との共通理解に努め、必要に応じて校内で共通理解の場を設け組織的に対応：スクールカウンセラー、特別支援教室(さくら教室・ひまわり教室、巡回指導)、日本語教室(ふじ教室)と連携。必要な支援方法や対策を進める。 ○授業支援ソフトの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○「小岩っ子の学び方」(学習のスタンダード)の確認 ○放課後補習教室「わく夢」の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の実態に応じて配慮：分量、内容など、選択できる課題 ○一人1台端末、デジタルドリルの活用 難易度・分量など個々に合ったコースを選択
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> ○全国学力調査等の結果 算数・国語 全国比比率 ○全国学力調査質問用紙「自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか」肯定的な回答の割合85% 	<ul style="list-style-type: none"> ○東京ベーシックドリル2回目8割 達成者 80%以上 ○全国学力調査質問用紙「授業の内容はよく分かりますか」肯定的な回答の割合85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○教員による把握(記録を比較する等、継続して実態を把握し、働きかけていく) ○学校の授業時間以外の勉強時間1時間以上の回答割合 70%以上